

まちの話題

PHOTO



ライトアップされた五重塔をバックに躍動感あふれる舞台を披露する備中温羅太鼓のメンバー

幻想の国分寺で和を堪能

春の吉備路 幻想の響宴

5月3日(祝)から5日(祝)まで、ライトアップされた五重塔をバックに、郷土芸能などを上演する「春の吉備路 幻想の響宴」が備中国分寺で行われました。初日の午後7時、黄金色に染まった五重塔を背景にした舞台では、備中温羅太鼓が登場。訪れた家族連れらは、体にズシンと響く演奏を楽しみました。4日の日本舞踊と獅子舞、最終日5日の備中神楽のステージでは、それぞれに優雅な舞を披露。3夜で延べ約3,000人の観客が、幻想の舞台を堪能しました。



緊迫した雰囲気の中、熱戦を繰り広げる選手たち

本番さながらの熱戦

全国障害者スポーツ大会卓球競技リハ大会

5月22日(日)、きびじアリーナで、輝いて！おかやま大会（第5回全国障害者スポーツ大会）の卓球競技のリハ大会が行われました。競技は、肢体・聴覚・知的障害者の選手が参加する「一般卓球」と視覚障害者の選手が参加する「S T T（サウンドテーブルテニス）」。

全国大会出場への切符をかけて、県内各地から参加した116人が熱い闘いを繰り広げました。また、選手をサポートする手話、要約筆記や誘導など大勢のボランティアの活躍が今大会を支えました。



家族に囲まれ百歳を祝ってもらう小池貞さん（中央）

100歳おめでとうございます

小池貞さん満百歳

5月26日(木)、小池貞さん（宿）が満百歳を迎えられたのを祝い、市や県から記念品が贈られました。小池さんは、17歳で結婚し、夫婦で農業を営みながら2男3女を育てられました。今でも身の回りのことはご自分でされるほどお元気です。長寿の秘けつは、いろいろなことに興味をもつこと。新聞やテレビ情報番組を見ることが日課となっています。子供夫婦から玄孫までの5世代同居の大家族で暮らす小池さん。相撲や野球中継を見て、日々をゆったりと過ごされています。



光瀬さんの左奥に見えるオブジェが、光瀬さんがデザインした「Hand in Hand（ハンドインハンド）」。

輝いている人
自分の作品が駅前にあるのは、
うれしいけどちよつと照れます。

総社駅前ロータリーのオブジェをデザインした

光瀬智一さん（福井）

着々と整備されている総社駅前広場。同広場のロータリー内にカラフルで幾何学的なオブジェがひととき目を引く。このオブジェをデザインしたのは光瀬智一さんだ。

光瀬さんがこのオブジェをデザインしたのは、今から3年前の総社南高校3年生のとき。駅前広場の検討委員会の委員になっていた美術工芸コースの同級生の呼びかけで応募。光瀬さんのデザインが見事採用された。「最初は、雪舟とかネズミとかをイメージしましたけど、何枚もデッサン画を書いているうちに今のデザインが浮かびました。色や形が奇抜だったので、まさか採用されるとは」と当時を振り返り、少しはにかむ。

現在、光瀬さんは、岡山県立大学デザイン学部工業デザイン学科に籍を置き、製品デザインを勉強している。製品でも、とりわけ家具のデザインを研究中の光瀬さんは「小さい頃からモノを作ったり絵を描いたりするのが好きでした。高校2年生のとき外国の著名なデザイナーのいすを見て自分もやってみたいと思うようになりまして」と瞳を輝かせる。また、「家具は、造形を追及し過ぎると使いづらくなります。造形美と機能性、この2つのバランスが難しいんですが、おもしろい所でもあるんです」と熱っぽく語る。

休日には、ドライブによく出掛けるという光瀬さん。「僕は、総社のまちで結構好きです。自然がいっぱいで、煮詰まったときにはドライブすると気分が晴れますから。でも、みんなが手を取り合って頑張ったらもっといいまちになると思いますよ」。駅前のオブジェには、そんな若者の思いが詰まっている。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。